

ハンガリー映画の30年

当フィルムセンターでは、毎年の行事の一環として海外諸国の協力を得ての外国映画祭を実施し、映画による国際文化交流の一翼を担ってきました。

昭和49年度は、解放30周年を迎えるハンガリー人民共和国の協力により、建国記念の意義をあわせて、同国の映画が世界の映画芸術の進展に大きく寄与したその実証たる主要作品を招来し、下記日程により特集上映を開催することとなりました。

ハンガリー映画は、これまでわが国ではほとんど紹介される機会に恵まれませんでしたが、同国は戦前アレクサンダー・コルダ、マイケル・カーティス、パウル・フェヨシュ、ラヨシュ・ピロなどの国際的映画人を生み出し、その外国における活躍ぶりは映画史に残るものがあります。今回上映される作品は、それらすぐれた映画作家の人脈を継承した同国の代表的作家の手になるもので、建国30年のハンガリー映画を展望する上に大きな役割を果たすものと確信いたす次第です。ひろく映画愛好者の御鑑賞をおすすめします。

フィルムセンター

1975年3月13日～3月28日

日曜・祝日休館

午後3時・6時15分開映

一般100円・学生70円・小人50円

(注) *印=日本語字幕つき △印=英語字幕つき □印=字幕スーパーなし C=カラー作品

期 日	曜 日	題 題	名 名	製作年	監 督	備 考
3月13日	木	ヨーロッパの何処かで	*	1948	ゲーザ・ラドヴァニユイ	戦災孤児たちの自由への目覚めを描く戦後ハンガリー映画の世界的初の秀作。
14日	金	メリー・ゴー・ラウンド	*	1956	ゾールタン・ファーブリ	美しい農村の祭りを背景に描く愛の叙情詩。
17日	月	ハンニバル教授	□	1956	ゾールタン・ファーブリ	ファッショ的思潮の恐怖を描く秀作。カルロヴィ・ヴァリ映画祭第1賞。
18日	火	しかめ面	△	1965	フェレンツ・カルドーシュ ヤーノシュ・ロージャ	6歳の子供が社会と人間を知りはじめる。チュニジア映画祭受賞作。
19日	水	一万の太陽	*	1965	フェレンツ・コーシャ	ハンガリー農村の階級斗争を描く。カンヌ映画祭監督賞、同青少年映画賞、ハンガリー映画批評家賞。
20日	木	父	△	1966	イシュトヴァーン・サボー	少年が父を通じて見た戦中・戦後史。モスクワ映画祭グランプリ、アカプルコ・ロカルノ各映画祭受賞。
24日	月	つめたい日々	△	1966	アンドラーシュ・コヴァーチ	戦時中残酷な行為に加担した4人の苦悩。カルロヴィ・ヴァリ映画祭第2賞、同国際映画批評家協会賞、ハンガリー映画批評家賞。
25日	火	丘の上の夏	*	1967	ペーテル・バチョー	現代の世代の断層を見つめる力作。
26日	水	赤い聖歌	C△	1972	ミクローシュ・ヤンチョー	19世紀の農民蜂起とその鎮圧を独自の芸術的手法で描く。カンヌ映画祭監督賞。
27日	木	雪が降る	C△	1974	フェレンツ・コーシャ	深沢七郎作「楯山節考」に触発された異色作。
28日	金	《アニメーション映画特集》 コンセルテイシモ ドラゴン 情熱 太陽と月の誘拐 「グスタフ」シリーズ			ヨーゼフ・ギーメシュ シュメニユイ・アンドラス ヨーゼフ・ナップ シャンドール・レイゼンブッフレル	

※ 開映後の入場は御遠慮下さい。

土曜特集：映画史上の名作

*開映時間、料金は平常と同じ

期 日	題 名	製作年	監 督	出 演 者
3月15日(土) 29日(土)	居酒屋 会議は踊る	仏・1956年 独・1931年	ルネ・クレマン エリック・シャレル	マリア・シェル、フランソワ・ペリエ リリアン・ハーヴェイ、コンラート・ファイト